

サッカーにおけるクロスボールに関する研究

ーサイドバックに着目してー

北 浩司 (競技スポーツ学科 情報戦略コース)

指導教員 望月聡

キーワード：クロスボール,サイドバック,位置

1. 緒言

サッカーにおいて最大の目的は、ゴールを奪うことである。しかし、現代のサッカーの守備体系は、Less time, Less space とされるように高度に組織化されており、中央からの突破、ゴールを奪うことは以前にも増して困難である。そのため、攻撃側はゴールを奪うためにプレッシャーを受けることの少ないサイドのスペースへと攻撃の活路を見出すこととなり、サイドでの攻撃、クロスボールの重要性が問われている。

そこで本研究では、サイドからのクロスボール、特にサイドバック（以下 SB とする）に着目して研究を行うことにする。着目した理由としては、SB は現代サッカーにおいて攻撃の起点と言われているからである。そこでサイドからのクロスボールに関して、特に SB からのクロスボールの重要性について分析することにより、どのようなクロスボールが有効なのか、SB がクロスボールを上げることが勝敗にプラスの影響を及ぼすのか、SB が攻撃に参加する重要性について研究する。

2. 研究方法

2011 年度 J2 優勝、天皇杯制覇チームの FC 東京のリーグ戦 19 試合の試合映像が対象である。

全サイドからのクロスボール数、SB からのクロスボール数、クロスボールからの得点数、各クロスボールエリアをカウントし分析する。

3. 結果と考察

表 1 総クロスボール数

全クロスボール数	SB クロスボール数	総クロスボール得点数
295 本	136 本	9 本
1 試合平均	1 試合平均	SB クロス得点
15.5 本	7.1 本	2 本

クロスボールの上げる位置においてはとりわけ、大きな変化はみられなかった。ポジションを問わずクロスボールを上げる位置について、有効な場所は同じ位置であることがわかった。

FC 東京リーグ戦 19 試合中、負けた試合は 4 試合であり、その試合におけるクロスボールは、1 試合平均全クロスボール数は 19.25 本、SB クロスボール数は 11.25 本であり、勝った試合 12 試合では 1 試合平均全クロスボール数は 14.5 本、SB クロスボール数は 5.91 本であり、比較すると勝った試合に比べて負けた試合の方が全クロスボール数、SB のクロスボール数共に多いことがわかった。

4. まとめ

本研究では、SB のクロスボールは攻撃方法の 1 つと言えるが、本数自体が直接勝敗や得点には影響しないと言える。

【引用参考文献】

風間塾 風間八宏 ,サイドアタッカー 金田喜稔,スカパー！サッカー中継 Jリーグ (J2)